



NIIGATA SEIRYO

青陵大学継灯式あいさつ

本日、記念すべき門出の日となる継灯式を迎えられた96名の皆さん、おめでとうございます。また、ご臨席いただいたご家族の皆さま、誠におめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

実行委員をはじめ皆さんが手づくりで準備したこの節目の式を契機に、皆さんはそれぞれが目指している看護の道を、より具体的に歩いていくこととなります。

先ほど披露してくれた、96名の「誓いの言葉」、素晴らしかったですね。「確かな知識と優しさあふれる技術」「思いやりある温かい看護」—とても大切な言葉と思います。そして実習を受け入れてくださる方々や先生方、指導者の方への感謝の思い、さらに皆さんを育ててくれたご家族への感謝の念、これを忘れないことも心に刻んでほしいと思います。人間は誰しも、一人では大人になれない存在です。成長を支えてくれる方々への感謝の気持ちを忘れずに、これからの人生を歩いていってほしいと思います。

皆さんは青陵大学看護学科で学ぶことを選択されました。人々のお役に立つ「看護の道」、これは素晴らしい選択だと思います。私ごとになりますが、いま76歳の私は72歳の時、初めて入院という経験をしました。手術も初めてで不安だらけ。特に夜の病室では何晩も心細い思いをしました。そんな私を支えてくれたのは看護職の方たちでした。明るい笑顔、適切な助言、細やかな心遣いに癒され、入院暮らしを何とか乗り切ることができました。恐縮ですが、医師の皆さんより、看護師さんの方に強い印象が残っています。

入院中に新潟市長時代のことも思い出しました。市長には色々な声が寄せられるのですが、感謝の気持ちが伝えられることは、残念ながらそう多くはありません。そんな中、最も多く感謝の念を寄せていただいたのは新潟市民病院に関する件でして、その大半が看護師さんへの感謝でした。献身的看護や医師とのチームワーク、退院する際の温かな対応・励ましなどが強く印象に残るようでした。「市民病院の印象の8割～9割は看護師が決める」と何人かの院長経験者が語って

いましたが、その通りと思います。

新型コロナなどの感染症との闘いや高齢化の進行で、世間では看護職、あるいは保健師さんへの関心が高まり、また少子化の中にあっては助産師さんや養護教諭の方々への思いが強くなっています。そんな時代に看護・保健の道に進まれる皆さんには、以前よりも多くの期待と願いが寄せられています。先生方のお力を借りながら、仲間とスクラムを組んで、一步一步前進していきましょう。

皆さんの未来に多くの希望の灯がともるよう、学園としても精一杯応援していくことをお誓いして、理事長からの祝辞とさせていただきます。共に頑張りましょう。ありがとうございました。

2025年5月10日

新潟青陵学園

理事長 篠田 昭